

資料編

1 子ども・子育て支援プラン（令和2～6年度）の進捗状況

☆：評価指標

項 目		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)	
柱1 仕事と子育ての両立のための基盤整備							
1-① 就学前教育・保育の充実							
☆	保育所等の待機児童数	31人 (R3.4.1)	8人 (R4.4.1)	1人 (R5.4.1)	0人 (R6.4.1)	0人 (R7.4.1)	
	保育の受け皿確保 保育所等での2号・3号認定の利用定員	20,871人 (R3.4.1)	21,147人 (R4.4.1)	21,189人 (R5.4.1)	21,491人 (R6.4.1)	22,200人 (R7.4.1)	
	延長保育事業 実利用人数	5,982人	6,160人	5,828人	5,777人	5,861人	
	病児保育事業 延利用人数	2,430人	3,772人	3,704人	7,032人	13,872人	
	最適化に向けた施設整備・幼保一体化 の推進事業	市立幼保連携型認定こども園の整備数 (目標値は地元説明着手を含む)	17園 (R3.4.1)	19園 (R4.4.1)	20園 (R5.4.1)	22園 (R6.4.1)	36園 (R7.4.1)
		市立幼稚園及び保育所の社会福祉法人・ 学校法人への移管数 (目標値は地元説明着手を含む)	7園 (R3.4.1)	7園 (R4.4.1)	7園 (R5.4.1)	16園 (R6.4.1)	17園 (R7.4.1)
	免許資格取得等支援事業 幼稚園教諭免許・保育士資格未取得者数	79人	55人	50人	27人	0人	
	保育士確保支援事業（保育士・保育所 支援センター事業） 潜在保育士登録者数	48人	49人	71人	45人	毎年度 130人	
1-② 放課後児童クラブの充実							
☆	放課後児童クラブへの入所希望に対す る入所児童の割合の上昇	放課後児童クラブへの入所希望児童に対 する入所できた児童の割合	78.8%	81.6%	89.2%	95.1%	100%
	放課後児童健全育成事業 放課後児童クラブ利用児童数	9,338人	9,331人	9,615人	9,856人	10,039人	
	放課後児童クラブ施設の充実 施設確保が必要な児童クラブ数 (1.65㎡未満/人)	34クラブ	22クラブ	22クラブ	14クラブ	0クラブ	
柱2 子育てにおけるワーク・ライフ・バランスの推進							
2-① 仕事と子育ての両立支援							
☆	男性の育児等への積極的参加	「3歳児アンケート」で「平日育児に参 加する時間」について1時間以上と回答 した父親の割合	59.6%	56.8%	60.1%	61.6%	60.0%
柱3 母子の健康づくりへの支援							
3-① 安心して妊娠・出産できる環境の充実							
	妊婦一般健康診査事業 受診率	98.7%	98.5%	99.5%	98.7%	99.0%	
	産婦健康診査 受診率	84.1%	82.2%	82.3%	83.0%	90.0%	
3-② 親子の健康を支える相談・支援の充実							
	おかやま産前産後相談ステーション事業 専門職による面接割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率	96.9%	97.3%	97.0%	97.6%	100.0%	
	赤ちゃんすこやか相談（～令和2年度） 利用率	11.8%	—	—	—	45.0%	
	さんさん育児相談（令和3年度～） 利用率	—	6.6%	12.6%	13.6%	15.0%	
	養育支援訪問事業 延べ訪問数	474人	248人	224人	336人	700人	
	乳幼児健康診査事業	健診受診率〔3～5か月児〕	94.4%	94.7%	94.9%	96.1%	98.0%
		健診受診率〔1歳6か月児〕	96.9%	94.4%	96.4%	97.4%	97.0%
		健診受診率〔3歳児〕	95.5%	93.1%	96.0%	96.0%	95.0%

項 目		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)	
柱4 子育ての負担感や不安感をやわらげる支援							
4-① 育児不安の軽減と子育て家庭の孤立化の防止							
☆	子育てが楽しいと感じる保護者の割合の向上	「子ども・子育て支援に関するアンケート」の「子育ては楽しいか」で、「どちらかといえば楽しいことのほうが多い」と回答した割合	—	—	—	73.4%	78.0%
	子育てしやすいまちと思う保護者の割合の向上	「子ども・子育て支援に関するアンケート」の「子育てしやすいまちと思うか」で、「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答した割合	—	—	—	57.2%	65.0%
	一時預かり事業	延利用者数	121,679人	115,212人	112,304人	126,788人	198,163人
	ファミリーサポート事業	活動件数	6,375件	6,944件	7,413件	7,212件	10,016件
	子育て短期支援(ショートステイ)事業	延利用日数	165日	79日	97日	171日	950日
	利用者支援事業(特定型)	保育利用者支援員による年間相談対応件数	13,955件	10,281件	10,741件	11,032件	16,000件
	子育て応援サイト(こそだてぼけっと)運営	年間アクセス件数	874,529件	710,711件	565,647件	534,153件	1,200,000件
4-② 子育てについて学ぶ親等への支援							
	スクールランチセミナー	「セミナーで学んだことを自らの食生活に生かしたい」と回答した参加者の割合	—	—	91.4%	93.2%	98.0%
柱5 子どもが安全で健やかに育つことができる環境づくり							
5-① 地域社会の子育て力を高める							
☆	家族で地域行事に参加していると答えた保護者の割合の向上	「岡山市教育に関する総合調査」	59.6%	55.2%	54.5%	60.9%	68.0%
	地域子育て支援拠点事業	利用延べ人数(0~2歳児)	41,880人	38,679人	59,535人	69,501人	73,738人
	子育て支援「のびのび親子広場」事業	地域の子育てを支援していく役割を果たしていると答えた園の割合	47.0%	49.0%	53.4%	61.0%	75.0%
5-② 安全・安心の地域子育て環境の整備							
	プレーパーク普及事業	開催か所数	13か所	11か所	13か所	14か所	15か所
	放課後子ども教室推進事業	開設か所数	19か所	18か所	17か所	17か所	24か所
5-④ 生活や学習の基盤づくり							
	食育の推進	朝食を毎日食べる児童生徒の割合	—	83.2%	81.9%	80.7%	100%
5-⑥ 地域に開かれ信頼される学校園づくり							
☆	学校からの情報提供に関する保護者の満足度の向上	「岡山市教育に関する総合調査」	85.1%	82.9%	84.2%	84.9%	90.0%

項 目		令和2年度 (実績)	令和3年度 (実績)	令和4年度 (実績)	令和5年度 (実績)	令和6年度 (目標)	
柱6 困難を抱える子ども・若者やその家庭への支援							
6-① 子ども虐待の防止と子どもと家庭の支援							
☆	子ども家庭総合支援拠点の設置	子ども家庭総合支援拠点の設置数	0か所	0か所	6か所	6か所	
6-② 社会的養護の推進							
☆	里親養育包括支援事業	里親等委託率	16.7%	19.0%	17.3%	22.8%	34.9%
		委託子ども数（ファミリーホームを含む）	35人	40人	36人	45人	75人
		里親登録数	97組	113組	110組	123組	151組
☆	民間の児童養護施設等の整備及び環境改善支援	小規模かつ地域分散化された児童養護施設等の個所数と入所子ども数	4か所 24人	3か所 18人	4か所 24人	4か所 24人	5か所 30人
		社会的養護自立支援事業	退所前講座実施か所数	0か所	0か所	0か所	0か所
6-④ 障害、発達に遅れのある子ども・若者への支援							
	社会参加プログラム事業	社会参加プログラムに参加して就労に関するステップアップに至った発達障害者	5人	11人	5人	2人	5人 (毎年)
柱7 若者の健全な成長と自立の支援							
7-① 次世代の親の育成							
	いのちを育む授業	実施校数	0校	0校	0校	5校	9校
7-② 若者の社会的自立支援							
	働き方改革推進・企業情報PR事業	紹介企業数	201社	200社	200社	200社	1,000社 (累計)
	合同企業説明会	参加者数	(web開催) 延べ113人 (現地開催) 196人	(web開催) 延べ101人 (現地開催) 73人	(web開催) 延べ60人 (現地開催) 192人	(現地開催) 166人	2,500人 (累計)
	学生と地元企業の交流事業	参加者数	延べ81人	延べ88人	延べ46人	延べ49人	500人 (累計)
	中高生を対象とした合同職場体験イベント開催事業	参加者数	-	-	-	-	2,500人 (累計)
	出合いのひろば事業	事業参加者のうちカップル成立数	8組	2組	5組	13組	45組 (累計)
	ひきこもり地域支援センター事業	相談案件数	192件	168件	165件	172件	250件

2 子ども・子育て支援事業計画（令和2～6年度）の進捗状況

項 目		第二期計画					
		年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
保 育	保育の量	※実績は翌年度4月1日時点					
	保育所、地域型保育事業等の 利用定員数	確保方策	20,600人	21,400人	21,200人	21,200人	21,200人
		確保実績	20,871人	21,147人	21,189人	21,491人	—
保育の受け皿整備は、ほぼ予定通り確保できている。							
地 域 子 ど も ・ 子 育 て 支 援 事 業	1-① 利用者支援事業（特定型）						
	保育利用者支援員による年間 相談対応件数	量の見込み	16,000件	16,000件	16,000件	16,000件	16,000件
		利用実績	13,955件	10,281件	10,741件	11,032件	—
	相談件数は令和3年度から横ばいの状況。実績が見込みを下回っている理由は、待機児童数の減少や就学前児童数の減少の影響があると考えられる。						
	1-② 利用者支援事業（母子保健型）						
	専門職による相談面接件数	量の見込み	6073件	5981件	5,926件	5,871件	5,853件
		利用実績	5763件	5,613件	5,377件	5,034件	—
	婚姻数減少、晩婚化など複数の要因により出生数が想定より減少しているため、実績が見込みを下回っている。						
	2 地域子育て支援拠点事業						
	利用延べ人数	量の見込み	91,788人	83,614人	76,932人	73,665人	73,738人
利用実績		41,880人	38,679人	59,535人	69,501人	—	
事業の周知や充実に努めた結果、利用実績は増加しておりコロナ禍以前の水準に戻りつつある。							
3 妊婦健康診査事業							
妊娠届出数	量の見込み	6,073人	5,981人	5,926人	5,871人	5,853人	
	利用実績	5,763人	5,613人	5,377人	5,034人	—	
婚姻数減少、晩婚化など複数の要因により出生数が想定より減少しているため、実績が見込みを下回っている。							
4 乳児家庭全戸訪問事業							
訪問数	量の見込み	5,757人	5,670人	5,618人	5,565人	5,548人	
	利用実績	5,741人	5,353人	5,262人	5,023人	—	
婚姻数減少、晩婚化など複数の要因により出生数が想定より減少しているため、実績が見込みを下回っている。							
5 養育支援訪問事業							
訪問数	量の見込み	700人	700人	700人	700人	700人	
	利用実績	474人	248人	224人	336人	—	
令和5年度は、支援が必要な家庭に頻回な訪問を実施したため前年度より訪問実績は増加している。実績が見込みを下回っている理由は、産科医療機関で実施する産後ケア事業や様々な支援制度を組み合わせる支援するケースが増えたため、養育支援訪問事業としての実績が減少したのと考えられる。							

項 目	第二期計画					
	年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
6 子育て短期支援事業						
延べ利用日数	量の見込み	926日	932日	938日	944日	950日
	利用実績	165日	79日	97日	171日	—
	<p>新型コロナの影響により施設の受け入れが困難になり実績は減少していたが、新型コロナが収束に向かうに従い利用実績は増加傾向にある。</p> <p>実績が見込みを下回っている理由は、コロナ禍において施設の受け入れが難化し、5類移行後も、なお施設の受け入れが慎重になっていたためと考える。</p>					
7 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）						
活動件数	量の見込み	9,960件	9,820件	9,687件	9,542件	9,413件
	利用実績	6,375件	6,944件	7413件	7,212件	—
	<p>新型コロナの影響により利用者が減少していたが、収束に伴い活動実績は増加傾向にある。実績が見込みを下回っている理由は、国の活動件数集計方法の変更により、活動件数が減少したためと考える。</p>					
8 一時預かり事業						
利用延べ人数	量の見込み	137,952人	152,765人	167,722人	182,988人	198,163人
	利用実績	121,679人	121,635人	117,727人	126,788人	—
	<p>一時預かりの実績はコロナ禍以前の水準に戻っている。実績が見込みを下回っている理由は、見込みは潜在ニーズを含んでおり、そのニーズが想定ほど顕在化しなかったためと考える。</p>					
9 延長保育事業						
実利用人数	量の見込み	5,937人	6,050人	6,149人	6,003人	5,861人
	利用実績	5,982人	6,160人	5,828人	5,777人	—
	<p>延長保育の利用率及び就学前児童数の減少などにより前年度より実績は微減となっている。</p>					
10 病児保育事業						
利用延べ人数	量の見込み	14,466人	14,165人	13,903人	13,726人	13,524人
	利用実績	2,430人	3,772人	3,704人	7,032人	—
	<p>実績はコロナ禍以前を超える水準で増加している。実績が見込みを下回っている理由は、見込みは潜在ニーズを含んでおり、そのニーズが想定ほど顕在化しなかったためと考える。</p>					
11 放課後児童クラブ						
利用児童数	確保方策	9,015人	9,415人	9,615人	9,815人	10,039人
	確保実績	9,338人	9,331人	9,615人	9,856人	—
	<p>令和5年度は9,815人分の確保方策を見込んでおり、実績としては確保方策以上の9,856人分の受け皿を確保している。</p>					

こども計画の策定経過など

1 計画の策定経過

年度	年月日	取組	内容
令和5年	11月17日～ 12月13日	アンケート調査	子どもの生活実態調査 (小学5年生の児童とその保護者 2,500世帯 中学2年生の児童とその保護者 2,500世帯)
	1月23日～ 2月13日	アンケート調査	中高生世代の意識に関するアンケート調査 (中学1年生から高校2年生世代のこども 2,000人)
			若者の意識に関するアンケート調査 (18歳から39歳までの若者 2,000人)
			子ども・子育て支援に関するアンケート調査 (小学6年生までのこどもがいる家庭 5,000世帯)
令和6年	5月24日	審議会	子ども・子育て会議【全体会】 ・アンケート調査の結果について
	8月2日	(参考) 中学生の情報交 換・協議の場への 参加	「自分の意見を伝えたり反映させたりするためにどんな工 夫や取組ができるか」をテーマに中学生が情報交換・協議
	8月27日	審議会	子ども・子育て会議【全体会】 ・こども計画骨子(案)について ほか
			子ども・子育て会議【就学前教育・保育部会】 ・教育・保育の量の見込みについて ほか
			子ども・子育て会議【放課後児童クラブ部会】 ・放課後児童クラブの量の見込みについて ほか
	8月28日	審議会	青少年問題協議会 ・こども計画骨子(案)について
	10月20日	(参考) まちづくりワー クショップへの参加	若者にとって魅力的なまちについて話し合うワークショップ (高校生からおおむね40歳まで)
	10月24日	意見聴取	高校生への意見聴取(岡山後楽館高等学校) ・こども施策について説明後、こども計画についてグループ討議
	11月3日	意見聴取	小学生などへの意見聴取(わくわく子どもまつり) ・低年齢のこどもに関係が深いこども施策について、こどもが 大切に思うものを調査
	11月下旬	パブリックコメント (予定)	こども計画素案についてパブリックコメント実施
	11月下旬	審議会(予定)	子ども・子育て会議【全体会】 ・こども計画素案について
	11月下旬	審議会(予定)	青少年問題協議会 ・こども計画素案について
3月下旬		こども計画完成・公表	

予定

2 審議会(子ども・子育て会議、青少年問題協議会)での主な意見

こども計画骨子(案)について
こども大綱を踏まえて「こどもまんなか」を基本理念に入れて目に見える形にしてほしい。
こどもの権利について、今までとの違いが目立つようにしてほしい。
地域全体で子育てを支える人材の確保や人材の育成が大切。
こどもの意見を聞くことが大切。
中高生だけでなく小学生の意見を聞いてみてはどうか。 面白いやり方のアンケートがあってもいいのでは。 小さいこどもは大人が聞き取って答えてあげるなどの形もいいのでは。
目先の少子化対策、こどもを産むことだけでなく、それよりもこどもの権利や遊ぶ権利を守ることが大切。こども会で連れていく場所、雨でも遊べる場所や施設が必要。
こどもが安心して過ごせる居場所が、こどもが歩いて行ける場所にほしい。
「こどもまんなか」はこどもが大人とたくさんかかわること。今の場所で言える大人がいなければ、保育園・幼稚園・小学校時代の先生、つながりがある大人に話ができることが大切。困っていたらそこから支援にもつながるし、夢がもてる。
関係機関や団体、地域の連携がうまく回っていくようにいろいろなところでつながっていく環境づくりに取り組んでほしい。
若者の自殺が社会問題になっている。
こども総合相談所と地域こども相談センターの連携がまだまだ不十分。連携を強化してほしい。
助けてほしくてもSOSを出せない状況にある家庭やこどももいて、問題の解決に結びつけられていない。

3 こども・若者の意見を聴く取組

(1) 小学生などを対象とした調査

・概要

こども計画において、こども本人に関係が深い7つの施策の中で、こどもが「大切だと思うもの」を3つ選んでもらう調査を実施しました。

施策は、こどもに伝わりやすい表現を工夫し、ボードにシールを貼る方法としました。

就学前児童は発達段階に応じて保護者がサポートしたため、保護者の思いが反映されている場合があります。

・対象者 : 小学生（就学前児童、中学生の回答含む）

・日時、場所 : 令和6年11月3日 わくわく子どもまつり

	小学生	就学前児童	中学生	計
◆こどもの権利を守ること	139	97	1	237
・大人がこどもの意見をちゃんと聞いてくれること ・だれも仲間はずれにされないこと				
◆こどもの居場所づくり	128	150	2	280
・安心してすごすことができる場所があること ・遊んだり運動できたりする公園や施設があること				
◆こどもの学びと育ちのための支援	108	49	3	160
・学校で楽しく勉強や生活ができること				
◆地域社会の子育て力の向上	64	100	0	164
・近所や地域の人といっしょに、いろいろな活動や遊びができること ・こまったときに、いろいろな大人が助けてくれること				
◆児童虐待の防止	37	50	0	87
・こどもがおとなから、心や体を傷つけられないようにすること				
◆こどもの貧困対策	40	38	0	78
・お金がなくても、やりたいことにチャレンジできること				
◆いじめや不登校への支援	93	58	3	154
・いじめがなくなること				
計（延べ数）	609	542	9	1,160

回答者数（人） 203 181 3 387



(2) 中学生の情報交換・協議の場への参加

・概要

「自分の意見を伝えたり、反映させるために、どんな工夫や取組ができるか」をテーマに、中学生が情報交換・協議する場に参加し、中学生が考える工夫や取組について聴きました。

- ・対象者 : 中学生（岡山市内中学校の生徒71名）
- ・日時、場所 : 令和6年8月2日 岡山市勤労者福祉センター
- ・主催など : 岡山市教育委員会 第9回しゃべりんぴっく
- ・テーマ : 自分の意見を伝えたり、反映させるために、どんな工夫や取組ができるか

◆主な意見

- ・目安箱を設置する。
- ・アンケートやクロームブックを活用する。
- ・意見を伝える場をつくる。
- ・多数決だけでなく少数意見も「なぜそう思うのか」を聞く。
- ・意見を出しやすい環境や雰囲気をつくる。
- ・データや前例を示して説得力をアップする。
- ・こどもだけで難しいこともおとな（PTA）の力を借りて交渉し実現

(3) 若者を対象としたワークショップへの参加

・概要

「若者にとって魅力的なまちってどんなまち」をテーマに高校生からおおむね40歳までの若者を対象にしたワークショップに参加し、若者が求めるまちづくりについて聴きました。

- ・対象者 : 高校生からおおむね40歳までの若者
- ・日時、場所 : 令和6年10月20日 岡山コンベンションセンター
- ・主催など : 岡山市政策局 岡山市まちづくりワークショップ「若者100人ワークショップ」
- ・テーマ : 若者にとって魅力的なまちってどんなまち

◆主な意見

- ・就労などについて（労働環境の整備、仕事で学べる場の充実、キャリアサポート、起業したい人への支援、就職の選択肢を増やす等）
- ・ワークライフバランス（仕事と遊びの両立、育休が取得しやすい雰囲気づくり、子育ての充実等）
- ・意見を言いやすい環境について（市民の意見を取り入れる制度、意見交換できる場、若者の意見を認めてくれる環境など）
- ・人との交流や居場所、娯楽、交通の利便性向上など魅力あるまちづくり

(4) 高校生を対象としたワークショップ

・概要

岡山後楽館高等学校の「総合的な探究の時間」の授業において、岡山市のこども子育て支援に関する現状や取組について説明しました。

その後、「住みたい岡山市になるためにはどうしたらいいか」をテーマに、高校生の視点から様々な意見や提案をいただきました。

- ・対象者 : 高校1年生 23名
- ・日時、場所 : 令和6年10月24日 岡山後楽館高等学校
- ・テーマ : 住みたい岡山市になるためにはどうしたらいいか

◆主な意見

- ・若者の居場所の充実（学生が遊べる場所を増やす、アイドルのライブができる大型ライブ会場、テーマパーク・レジャーランド・アトラクション施設・美術館、イベントの充実）
- ・商業施設の充実（アウトレット施設、有名ブランドの販売店）
- ・学びの支援（専門学校（建築系）の充実、自宅近くに自習できる場所、校内フリーWi-Fi）
- ・公共交通の利便性の向上（電車・バスの増便、電車で通える範囲を増やす、セグウェイ設置、通学者専用車両を作る）
- ・経済支援（学費の完全無料化、学割特典の増加、親の給料の引上げ）

